

群 教 七	G01 - 03
	平25.251集
	中・国語

# 自分の考えをもち、適切に表現する力を 育成する文学的な文章の読解指導の工夫

— キーワードに着目し、  
表現の効果を捉える学習を通して —

特別研修員 清水 昭

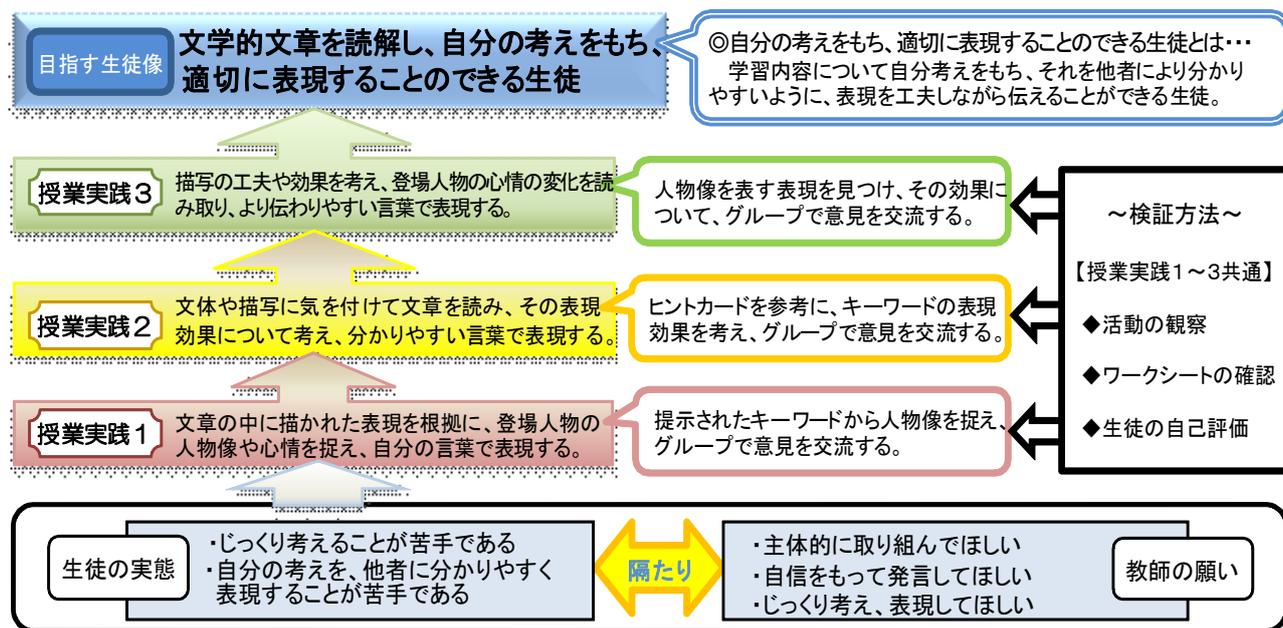
## I 主題設定の理由

本校には、自分の意見をなかなかもてない、もってもそれを適切に表現できなかつたり自信がなく発表できなかつたりする生徒が多く、全体での意見交流で考えを深めていくことを苦手とする傾向が強い。

そこで、キーワードに着目したワークシートの工夫とグループでの意見交流を主な手だてとして、①文学的な文章の中に描かれた表現を根拠に、登場人物の人物像や心情を捉えさせる、②文体や描写に気を付けて文学的な文章を読み、その表現効果について考えさせる、③具体的な部分を取り上げて描写の工夫や効果を考え、登場人物の心情の変化を読み取らせるというねらいを段階的に達成していけば、「自分の考えをもち、それが適切に表現できるとともに、意見交流を通して意見を深めることのできる生徒」を育成していけると考え、上記のとおり主題を設定した。また、こうした実践により「はばたく群馬の指導プラン」の課題「文章の特徴や表現の仕方について考えること」の解決にも結び付くものと考え。

## II 研究内容

### 1 研究構想図



### 2 授業改善に向けた手だて

教材「走れメロス」(第2学年・1学期)において、文章中の表現を根拠として王ディオニスの人間性を捉える学習を位置付け、次のような手だてを考えた。

— 実践1における研究上の手だて —

- 王ディオニスの人間性を捉えるためのワークシートの工夫
  - ・与えられたキーワードから、意見交流を通して、自分で根拠を見つけるといった手順を追いながら人物像を捉えられるようにする。
- グループでの意見交流の活性化を図るための工夫
  - ・話し合いマニュアル(P4図1参照)を用意して、意見交流が活発に行えるようにする。

文章中の表現を根拠に登場人物の人物像を捉えることをねらいとする単元において、自分の意見をもたせること、それをグループ内で発表させることを本時の課題として授業を実践した。語句や表現への着目を促すワークシートの効果が少しずつ現れ、一つ一つの言葉や表現に注意して文章を読み取ろうという意欲が感じられるようになり、多くの生徒が自分の意見をもつとともに、グループでの交流でも意見を発表できた。しかし、自分の意見は言うものの、友達の見解を受けて自分はどうか、どんなところがどのように良いと思うかなど、交流でさらに考えを深めていけるような場面はあまり見られなかった。

教材「小さな手袋」(第2学年・2学期)では、文体や描写に気を付けて文学的な文章を読み、その表現効果について考えることをねらいとし、次のような手だてを考えた。

—— 実践2における研究上の手だて ——

- 表現の効果や心情を捉えるための、考える手順やヒントの記載されたワークシートの工夫
  - ・ 一斉指導で、キーワードからの表現の効果や心情の捉え方を確認させる。
  - ・ キーワード前後の主人公の様子や言動を想像させ、心情を捉えさせる。
  - ・ キーワードから連想される言葉や事柄をまとめさせる。
- 個人で考えたものをさらに深めるグループでの意見交流の工夫
  - ・ 聞く視点、話し合いの視点を明確にして、四人グループで意見交流させる。

まず、最初のキーワードを取り上げて、一斉指導で表現の効果や心情の捉え方の確認をした。その後、各自で残りのキーワードについて、ヒントカード(P6図4参照)を参考にしながらワークシートに自分の考えを書き込み、その後グループで意見交流するといった流れで授業を実践した。ほとんどの生徒がヒントカードを参考にしながら考えを書き込むことができたことから、この手だてが表現の効果や心情を捉えるのに有効であることが分かった。また、「一斉→個人→グループ」という流れは、表現力を身に付けさせるのに有効であることが分かった。しかし、意見交流に入る前に個々の意見をしっかりもたせる必要があること、時間配分やキーワードの数等について見直す必要があることが課題として残った。

### Ⅲ 研究のまとめ

#### 1 成果

- 語句や表現への着目を促しながら読解を進めてきたことで、一つ一つの言葉や表現に注意して文章を読み取ろうという意欲が現れてきた。
- グループでの意見交流を繰り返し取り入れたことで、意見を進んで発表できるようになってきた。
- 考える手順やヒントの記載されたワークシートを活用したことにより、ほとんどの生徒が自分の考えを書き込むことができるようになった。
- 「一斉→個人→グループ」という流れを取り入れたことで、考えをもちそれを表現するまでの道筋を踏むことができるようになり、少しずつ表現力も身に付いてきた。

#### 2 課題

- 友達の見解を受けて自分はどうか、どんなところがどのように良いと思うかなど、さらに考えを深めていける意見交流となるよう工夫する必要がある。
- グループでの意見交流の前に、個々の意見をしっかりもたせる時間を確保する必要がある。

#### 3 考えを深め、表現する力を向上させるためには

自分の考えをより一層深めるために、自分の考えをもつ時間を確保した上での論点を明確にした意見交流を設定する。また、表現する力を向上させるために、表現する機会である意見交流を適切に位置付けた指導計画を構想する。

## IV 実践及び改善の実際

### 実践 1

1 単元名 理解力 1 「走れメロス」(太宰 治 作 三省堂「中学生の国語」二年)

#### 2 本単元及び本時について

本教材は、主人公メロスが、幾多の困難、試練、さらには暑さと疲労に打ち勝ち、人を信じるのできない王ディオニスに真実の存する所を見せるとともに、竹馬の友セリヌンティウスの信頼にひたすら応えようとする、人間の真実、信頼への賛歌を歌い上げたものである。その過程でメロスが見せたのは、単に勇者の強さだけではなく、自分を正当化したり弱さを見せたりといった人間らしい姿であり、王ディオニスも単に邪知暴虐の暴君ではなく、所々に人間らしさをのぞかせている。

そこで本教材では、文章中の表現を根拠に登場人物像を捉え、それぞれの人間性に迫っていく。王ディオニスについては教師側からキーワードを提示し、メロスについてはそれを生徒自身で見付けられるようにしていく。本時は全8時間計画の第5時に当たり、文章中の表現を手がかりに王ディオニスの人間性を把握することがねらいとなる。自分の考えがもてるよう、本時の研究上の手だてを次のように具現化した。

#### 3 授業の実際

前時までに、①全文通読する、②難解語句や人物像、心情を確かめる手がかりとなる語句の意味を調べる、③場面ごとのあらすじを把握する、④王ディオニスとメロスの印象をまとめるという学習を行った。

本時は、導入において王ディオニスの印象を確認した。生徒は、前時までの学習を振り返り「暴君」、「邪知暴虐」、「人を殺します」、「人を信じることができぬ」等の表現を根拠に、情け容赦のない非道な王の印象を発表した。そこで、「王は人の心をもっていなかったのか」と問いかけ、「おまえなどには、わしの孤独の心がわからぬ」、「人の心は、あてにならない」、「人のはらわたの奥底が見えずいてならぬ」、「おまえの心はわかっているぞ」、「わしの心に勝ったのだ」という「心」にかかわる表現を取り上げ、王ディオニスの人物像を考え自分の考えをワークシートにまとめた後、四人グループで意見を交流した。

#### 四人グループでの意見交流の様子 (S1は司会も兼ねる)

- S1: ワークシートの表現から王ディオニスはどんな人だと思いますか。
- S2: 以前に何かしらの体験をして人を信じられなくなったけど、本当は平和を望んでいるのだと思います。
- S3: 人に裏切られたことがあり、人の心が汚れていると思っている人だと思います。
- S4: 自分の心を分かってほしいと思っているけど、分かってもらえない孤独で寂しい人です。
- S1: 根は良い人だけど、何か悲しい気持ちを背負っている人だと思います。みんなの発表を聞いて、気付いたことはありますか。
- S3: 「あてにならない」「はらわたの奥底」なんてあるから、昔は人を信じていたのかなと思いました。
- S2: それでひどい目に遭って、だんだんと人が信じられなくなって、疑うようになってしまった。誰にも本音をぶつけられないので、孤独なんだと思います。
- S1: そんな王の心を元に戻したのが、メロスということだと思います。それでは、班の意見をまとめてください。
- S2: 王ディオニスは、元は人を信じていた。しかし、誰かに裏切られたことがきっかけで人を信じられなくなった。そして、人を疑い殺すようになった。そんな王の心の奥には、まだ人を信じたいという気持ちも残っていた。それを呼び起こしたのがメロスだ。という感じでいいですか。(全員うなずく)

このように、各自が自分の意見を発表し、語句や表現に着目してグループの意見をまとめることができた。また、司会者は話し合いマニュアル（図1）を見ながらであったが、話し合いをうまく進行することができた。

各グループの発表の後、王の人間像を、笑いや表情の表現を抜き出しそれを手がかりにして考えた。ワークシート（図2）に各自の考えをまとめた後、全体で話し合った。王ディオニスとメロスが対決する場面では、次のような発言が見られた。

話し合いマニュアル（司会者用）
① 課題（議題）を確認しましょう。 「これから」を「これ」にして意見を交流し（話し合い）ます。」
② 一人ずつ、意見を発表してもらいましょう。 「〇〇さん、意見を発表してください。」 ※意見の後に必ず理由（根拠）を言ってもらいましょう。 時計回りで、全員に意見を発表させてください。
③ 質問応答をしましょう。 「発表された意見の中で、質問や賛同の意見はありますか。」
④ グループの意見をまとめましょう。 「このグループの意見をまとめましょう。」 ※賛同の多かった意見を中心に、みんなで言葉を付け足したり、削ったりしてまとめましょう。

図1 話し合いマニュアル

走れメロス 学習プリント⑤	組	番	氏名（ ）
◎ 王ディオニスの人物像をとらえよう。 一 王ディオニスはどんな人間か、次の語句や表現を手がかりに考えよう。	語句・表現	人物像	
話し合ってみたら	「おまえなどには、わしの孤独の心が…」 「人の心は、あてにならない」 「人の心はわたしの奥底が見え透いて…」 「おまえの心は、わかっているぞ。」 「わしの心に勝ったのだ。」	昔、人に裏切られて一度は人を信じることができなくなりました。でも、ひそかに平和を望んでいて、二人の行動を見て、人を信じることの大切さを悟った人。 心には闇をもち、人の心は汚いと思っていたが、最後は人間性を取り戻し、人の心は清らかだと感じ、人を信じようとした人。 本当は人を殺したくないと思っていた、少しは人を信じようとする気持ちがあった。最終的には人を信じる人ができた。	
昔は人を信じていたけれど、裏切りに遭い、人を信じられなくなった。メロスとセリヌンティウスとの友情を見て、信じることは空しくなりました。			

図2 ワークシート

**全体での話し合いの様子**

- T：これらの表現から、ディオニスのどんな人間像が読み取れるかな。
- S5：落ち着きすぎていて、冷やかに物事を見ている人のような感じがします。
- S6：冷やかだどころか血が通っていない、感情のないような人って感じもします。
- S7：上から目線で、人を馬鹿にしている部分も感じられます。
- S8：何か裏がありそうで、嫌な感じの人です。
- S9：メロスが熱くなっているのに、いかにも冷静に対応して感じが暴君のイメージとかけ離れていると思います。
- S2：どこか寂しそうで、弱そうな感じもします。

この後、メロスが戻ってきた場面についても同じように話し合った。「顔を赤らめて」という表現から、王ディオニスに血の気が戻り人間らしい感情がわき出たこと、それが「仲間の一人にしてほしい」という発言につながったことを、多くの生徒が捉えていた。最後に、本時の話し合いを参考に、王の人物像をワークシートにまとめた（図3）。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔は人を信じていたが、裏切られ、不信感をもつようになった。でも、ひそかに平和を望んでいて、二人の行動を見て、人を信じることの大切さを悟った人。</li> <li>・心には闇をもち、人の心は汚いと思っていたが、最後は人間性を取り戻し、人の心は清らかだと感じ、人を信じようとした人。</li> <li>・本当は人を殺したくないと思っていた、少しは人を信じようとする気持ちがあった。最終的には人を信じる人ができた。</li> </ul>
---

図3 生徒がまとめた王ディオニスの人物像

**4 考察**

- 語句や表現への着目を促すワークシートの効果は少しずつ現れてきたようで、一つ一つの言葉や表現に注意して文章を読み取ろうという意欲が出てきた。
- 交流の前に意見をまとめる時間を確保したこともあり、ほとんどの生徒が自分の意見をもち、それをグループでの意見交流で発表することができた。
- 司会者のマニュアルだけでなく、友だちの意見を受けて自分たちの考えを深めていくことができるような交流を促すマニュアルの作成と活用、話し合いの仕方の指導が今後の課題である。

## 実践 2

### 1 単元名 伝え合う力 「小さな手袋」(内海 隆一郎 作 三省堂「中学生の国語」二年)

### 2 本単元及び本時について

本教材は、少女・シホと老女とのふれあいを中心とした心の交流を、シホの父親である私の視点から描いた作品であり、シホや老女の心理に関する描写は少なく、出来事が淡々とつづられている。そこで、「妖精」「大連に帰った」等のキーワードを中心にその表現効果を理解させながら、老女との関係の深まり、シホの心情や心の成長を捉えさせるとともに、視点に着目させることで、どのような効果があるかを考えさせていく。さらに、視点を変えて一場面を書き換えるという学習を通して、文体や描写の効果について体験的に学び、内容を理解する力に加え、表現する力の育成も図る。

本時は全5時間計画の第2時に当たり、文章中のキーワードからシホの心情を捉えるとともに、表現の効果を考えることがねらいとなる。実践1の考察も踏まえ、自分の考えをもたせるために、本時の研究上の手だてを次のように具現化した。

### 3 授業の実際

導入において、学習課題『「シホ」の心情を捉え、文章中のキーワードの表現効果を考えよう』を提示し、キーワードとして「妖精に出会った」、「甘い匂い」、「別れのための儀式」、「小さな手袋」、「大連に帰った」の五つの表現を取り上げた。

まず、「妖精に出会った」について、シホの心情と表現の効果を全体で話し合った。

#### 全体での話し合いの様子

T: 「妖精に出会った」の妖精とは、だれのことですか。

S1: 雑木林にいたおばあさんのことです。

S2: 私もそう思います。(全員うなずく)

T: 「妖精」に出会ったときシホはどんな気持ちでしたか。

S3: 驚いたと思います。

S4: 小さくてかわいいと思いました。

S5: それは違うと思います。怖かったんだと思います。

T: どうしてそう思いましたか。

S5: 「魔法を使って人間を石や木に変えてしまう意地悪な妖精」って書いてあるからです。

T: 他の人はどうですか。(全員うなずく。)

「妖精」のことを真剣に信じているシホはどんな子だと思いますか。

S6: まだ小さいんだと思います。

S7: 「小学3年生」って書いてあるから幼いと思います。

S8: 小さい子だから童話の話を実当だと思っているのだと思います。

S9: まだまだ純粋なんだと思います。

T: なるほど。そうすると「妖精に出会った」という表現は、シホの「幼さ」や「純粋さ」を表しているということが言えるね。

このように、生徒たちはキーワード以外の表現にも目を向け、それを根拠に自分の考えがもてるようになってきた。「妖精に出会った」の表現の効果についてまとめた後、考える手順を確認し、各自でヒントカード(次頁図4)を参考に「甘い匂い」、「別れの儀式」の二つのキーワードについてワークシート(次頁図5)にまとめ、発表した。「小さな手袋」、「大連に帰った」については各自で考えた後、四人グループで表現の効果について意見交流を行った。「小さな手袋」の表現の効果について、あるグループでは次頁のような話し合いが行われていた。

四人グループでの意見交流の様子 (S1は司会も兼ねる)

S1: 「小さな手袋」の表現の効果について発表してください。  
 S2: 苦勞して作ったのだから、おばあさんのシホへの思いを表していると思います。  
 S3: シホへの愛情のこもったプレゼントです。  
 S4: シホはもらって嬉しかったけれど、会いに行かなかった後悔の気持ちも表しているのでは。  
 S1: 「小さな」というところから、時の流れを表しているような気がします。  
 四人の意見の中で、よいと思った意見や考えたことはありますか。  
 S4: 贈ったおばあさんの思いともらったシホの思いの両方を表す効果があると思いました。  
 S2: 僕もそう感じました。  
 S1: 「おばあさんの愛情とシホの後悔」といった感じでいいですか。  
 全員: いいです。

小さな手袋 学習プリント② (ヒント編)  
 組 番 氏名 ( )

◎キーワードから「シホ」の気持ちを考え、表現効果をとらえよう。  
 場面④ 「甘い匂い」について

- 1 「甘い匂い」は何の匂い?
- 2 シホは毎日、なぜ雑木林に行っていたの? その時の気持ちは?
- 3 それを見守る私は、どんな気持ち?
- 4 「甘い匂い」は何を表しているのかな (「甘い」から連想される言葉は)?

図4 ヒントカード

小さな手袋 学習プリント②  
 組 番 氏名 ( )

◎キーワードから「シホ」の気持ちを考え、表現効果をとらえよう。  
 「キーワード」を中心にしたシホの気持ちと、表現の効果をまとめよう。

甘い匂い	妖精に出会った	キーワード
雑木林でついた枯れ葉の匂い	雑木林でおばあさんに会う	表している内容
(参考になった意見・考え)	楽しい 毎日おばあさんに会いたい	シホの気持ち・様子
父の安心感	シホの楽しみ おばあさんの喜び	表現の効果
	おばあさんの不気味さ	シホの幼さ・純粋さ

図5 ワークシート

「小さな手袋」の表現の効果については、どのグループもおばあさんの愛情、シホの後悔やプレゼントをもらったうれしさ等を捉えることができた。また、交流を通して分かりやすい表現でまとめることができた。しかし、「大連に帰った」については、つまずきの見られるグループもあった。

交流の結果まとめたものを模造紙に書き出し、それぞれ黒板に貼った。それを全体で確認した後、まとめとして「雑木林へ寄っていきたい」と言ったシホの気持ちを考え、発表した。

4 考察

- 考える手順を全体で確認し、ヒントカードを用いた結果、普段はなかなか自分の考えが書けない生徒も少なからず自分の力で考えが書け、グループ内でそれを発表することができた。
- グループでの意見交流も、少しずつではあるが深まりの見られる交流が行われるようになってきた。
- これまでは、与えられたキーワードやヒントを基に自分で考え意見をまとめてきたが、自分でキーワードを探し考えをまとめていけるようにするのが、今後の課題である。